全国曹洞宗青年会の活動紹介（十）

台風十九号被災地の避難所の様子

全国曹洞宗青年会災害復興支援部
「台風十九号被災地への支援活動について」

災害復興支援部事務局長　原田恵一（はらだえいっ）

全国曹洞宗青年会（以下全曹青）災害復興支援部では、日本国内で発生する自然災害などに対し、加盟曹青会や関係諸団体と連携し、速やかな情報共有を行うと共に、被災された寺院や地域住民の皆様への支援活動に取り組んでおります。

元号が令和へと改められた二〇一九年度は、全国各地で多くの自然災害が発生した年となりました。六月に発生した新潟山形沖地震。八月に発生した九州北部での豪雨災害。九月と十月には近年稀にみる大型の台風が相次いで上陸し、全国各地で猛威を振るいました。この稿では、特に被害の大きかった台風十九号の支援活動についてご紹介いたします。

私の住む長野県でも台風の上陸によって多くの被害が発生しました。特に被害の大きかった長野市では、千曲川の堤防決壊によって河川が氾濫し、多くの家屋や曹洞宗寺院が被害に遭われました。多くの住民が避難所

倒れた墓石の復旧作業

での生活を余儀なくされ、被災した地域の小・中学校においては、子供たちが登校できない状態が約二週間続きました。学校が再開し、子供たちが再び登校できるようになるまでの間、復旧作業を進める保護者の皆様に代わって、日中の子供たちの避難所での受け入れをシャンティ国際ボランティア会等の関係諸団体と協働で行いました。時には、近隣の大学から学生さんが訪れ、子供たちと遊んでくれました。

また、学校再開後は避難者の皆様に対し、傾聴ボランティア（行茶活動）を行いました。避難者の中には、堤防決壊箇所近くの曹洞宗寺院の檀信徒さんもおられました。ある方は「家も水にやられてしまい、お墓も倒れてしまった。新しく建てたばかりなのに」などと悲しい面持ちでおっしゃられ、不安そうでした。

曹洞宗長野県第一青年会と、県外から駆けつけてくれた曹洞宗青年会や有志の会、一般ボランティアの皆様と協働して、被災寺院の復旧作業を連日行いました。泥掻き、器物の運び出し、床を剥がしてからの床下の泥出しや建物の木材の除菌作業などです。十二月半ばに、日本石材産業協会が、倒れていた墓石の復旧作業を行なってくださいました。その結果、なんとかお墓にお参りができる状態まで復旧されました。

冬の寒さが本格化するにつれ、家屋が浸水したことによる暖房器具の不足が問題化しました。災害復興支援部では、加盟団体をはじめ広く関係諸団体などに向けて、被害の大きかった福島県いわき市の被災者の皆様へお配りするためのストーブのご寄付を募集いたしました。多くの皆様より温かいお気持ちをお寄せいただき、最終的に九十一台ものストーブを住民の皆様へお届けすることができました。改めてご協力いただいた皆様へ感謝申し上げます。

91台ものストーブのご寄付をいただきました

また、昨年十二月、全曹青はJVOAD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）という、災害地における支援団体間の連携・調整をするためのネットワークの会員となりました。今後の支援活動がより円滑になると考えられます（http://jvoad.jp）。全曹青は災害支援活動の推進とさらなる周知、より良い体制の構築を目指します。

災害復興支援部では引き続き、被災された皆様のお気持ちに寄り添うべく、ボランティア活動を継続して支援すると共に、今後発生するであろう災害に対しても尽力していきたいと思います。

●執筆者プロフィール
災害復興支援部事務局長
原田恵一
曹洞宗長野県第一青年会所属
東日本大震災の支援活動に、福島市に置かれた「曹洞宗災害対策本部　復興支援室分室」を介して携わる。第二十二期より全曹青に参加し、執行部の庶務を務める。第二十三期では災害復興支援部事務局長。